第４部　重点プロジェクト

（第３期江津市版総合戦略）

人口減少対策・地方創生の基本的な考え方

1．人口ビジョンを踏まえた中長期視野（2050 年を視野）

（1）目指す将来のすがた

本市のめざす将来の姿は、まずは、地域自らを磨いて、市内外の人に「選ばれる地域」になることです。

すなわち、都市部の人々がこのまちにさまざまな可能性を求めて移住する流れをつくり、かつ、ここで暮らす人々が仕事や地域おこしなど、新たな活動や価値の創造に果敢に挑む風土を醸成することで、「江津に住みたい！」「江津に住んで良かった。」と言われるまちになることです。

そのため、本市では、市民やＵＩターン者による起業や地域おこし活動、また、企業などが新たな産業分野へ進出することなどを促進し、多様で魅力ある雇用の場の創出に取り組みます。

多様で魅力ある雇用の場の創出により、若者がこのまちに定住し、結婚して、子どもを産み育てられる循環が生まれます。

また、このまちで生まれた子どもたちは、地域ぐるみの温かい子育て環境の中で健やかに成長するとともに、自ら学び、自ら考え、行動する力を身につけ、目まぐるしく変動する現代社会を「生きる力」を養います。

本市が将来にわたり、活力あるまちとして繁栄するためには、ここに暮らす人々が「新たなことに挑戦する気質」や「生きる力」を養うことができる環境づくりを進め、かつ、「挑戦する人を応援する風土」を培っていくことが肝要です。

以上の考えに立った本総合戦略の基本理念を、まちづくりのスローガンとして一つの言葉に込めました。

GO GOTSU!

山陰の「創造力特区」へ。

2. めざす将来の姿の実現に向けた基本目標のまとめ

子どもたちの未来のために目指す将来像の施策についてコンセプトを踏襲しつつ、第２期江津市版総合戦略の４つの基本目標を基に以下の図のように整理しました。

将来像(子どもたちの未来の生活・居場所を守る)

子どもたちの「未来」を守るために目指す目標人口(2050年：15,000(人))

2025年～2030年の5年間で
転入促進・転出抑制の効果による社会増232人

GO GOTSU!
山陰の「創造力特区」へ。

稼げる産業の創出

基本目標１　多様な生業（なりわい）と魅力ある雇用があるまち

【重点施策】 新規創業、新分野進出、6 次産業化、企業誘致、観光産業の推進などによる新しい産業・雇用の創出

【数値目標】 新規雇用者数(60 人/年)
地域への愛着度(3.4 以上)

郷土愛の醸成

基本目標２　住みたい！自分を活かせる場所があるまち

【重点施策】 子どもたちの郷土愛を育み地域へのかかわりを深めていく

【数値目標】 子どもたちの地域への愛着度(令和 7 年度調査値を基準値とする)

女性の定住・移住促進

基本目標３　子どもたちの未来を地域みんなで育むまち

【重点施策】 結婚から妊娠・出産・子育て、再就職の切れ目のない支援

【数値目標】 市内在住の 20～30 代女性の満足度(5.4 以上)
子ども女性比(0.25 以上)

地域の持続的発展

基本目標４　住み慣れた地域で安心して暮らせるまち

【重点施策】 地域コミュニティ(住民自治組織)の活性化
地域コミュニティが持つ機能の充実

【数値目標】 コミュニティ活動回数(7 回/年以上)

3. 子どもたちの未来のためにめざす人口目標

江津市人口ビジョンに記載した通り、人口減少は地域に多大な影響を与えます。そのため、江津市人口ビジョンの方針に掲げている方針に沿い、

【江津市の子どもたちの未来の生活・居場所を守るため】

とし、江津市の子どもたちの未来を守る「生活・教育サービス機能」の水準を検討し、そのために必要な目標人口を 2050 年で約 15,000 人と設定し、目標人口実現に向けた総合的な取組を策定します。

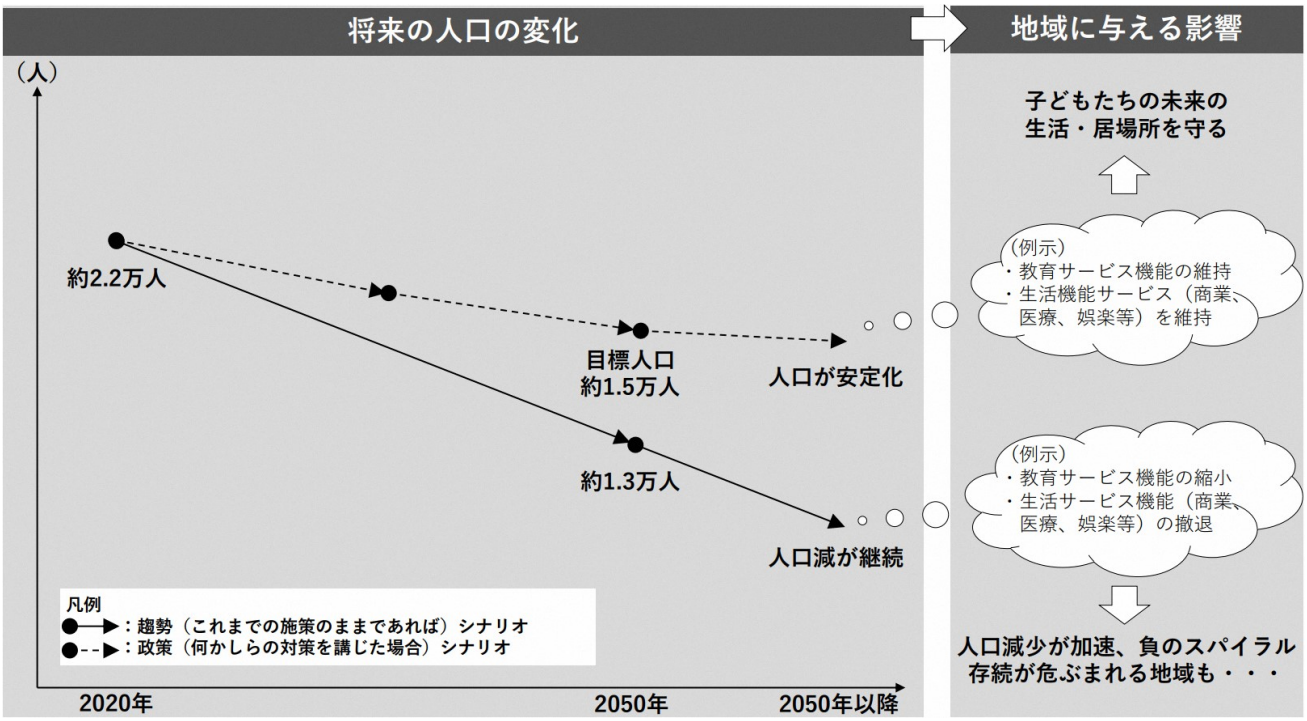


図 1 江津市の人口推移が地域に与える影響

4. 人口減少下におけるコミュニティ活動と関係人口

(1)　コミュニティ活動と関係人口の関係性

人口減少下において、市民の幸福度という観点から、地域コミュニティの活動は重要です。江津市人口ビジョンにおいてもふれたとおり、町内会や自治会といった住民自治組織の担い手不足や地域内における世代間交流の欠如による共助機能低下や、地域住民によって構成される消防団の団員数の減少は、地域の防災力を低下させる懸念があり、人口減少に伴う地域コミュニティ活動の減少は地域住民にとって非常に重要な事項であると考えます。

そのため、人口減少下において、地域に居住している「定住人口」のみならず、地域外の「関係人口」も含めた地域にかかわる人数を増やすとともに、積極的な活動の推進が求められています。

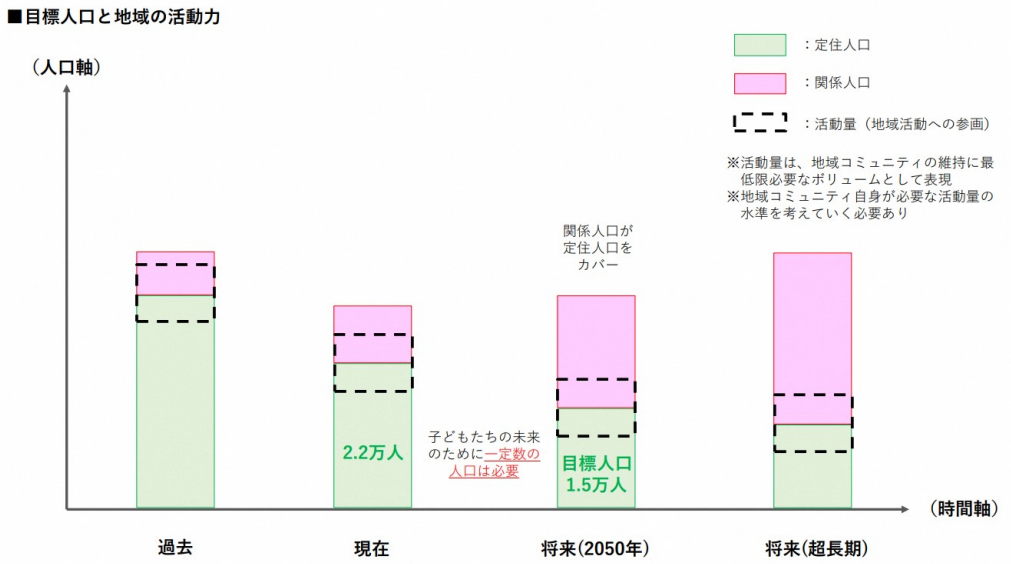


図 2 江津市における定住人口と関係人口による地域活動量の推移
出典 国土交通省　地方の機能確保に向けた関係人口との関係

※グラフ内の定住人口については江津市の統計値及び将来人口目標値を記載

(2)　コミュニティ活動と幸福度について

まちづくりへの参画やコミュニティ活動を通じて市民及びコミュニティの幸福度の向上も期待できます。江津市においてもアンケート調査より、市民の幸福度と地域活動には関係性があることが分かっています。そのため、江津市民の幸福度という観点においても地域コミュニティの活動は重要であると考えます。

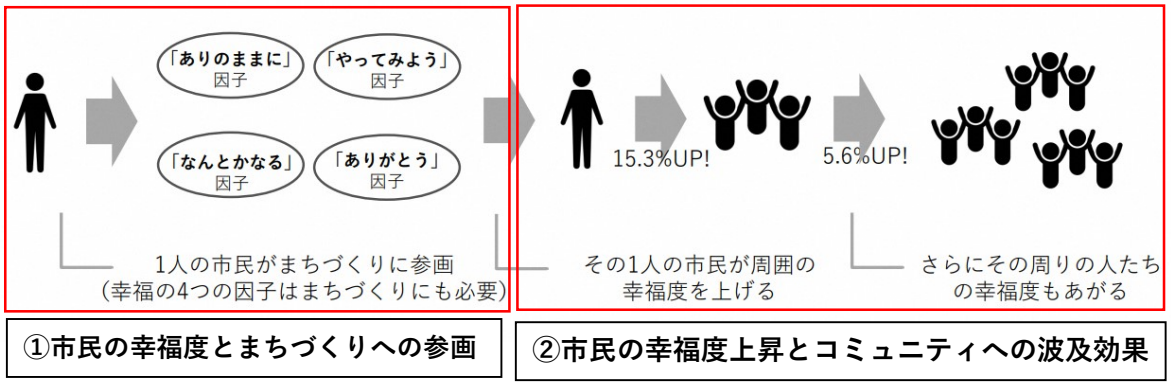


図 4　市民がまちづくりに参画することがコミュニティのウェルビーイング(幸福度)の向上にもつながる可能性

①　市民の幸福度とまちづくりへの参画

幸福度を高めるためには、「ありのままに」因子、「やってみよう」因子、「なんとかなる」因子、「ありがとう」因子を高めることが重要と言われています。これらは、まちづくりへの参画や地域コミュニティの活動を通して得られる効果に類推するものと推測されます。

②　市民の幸福度上昇とコミュニティ波及効果

幸せな人に出会うと出会った人は 15.3%幸せになる確率が上がり、幸せな人に会った人に会うと 5.6%幸せになる確率が向上すると言われています。まちづくりへの参画を促進することを通して、幸福度が向上している市民と出会う機会を増加させることで、コミュニティの幸福度の向上を促進させることができると期待できます。

※ありのままに因子 ： 他人と比較することなく、自分らしく生きていくことに関係する因子
※やってみよう因子 ： 夢や目標を見つけ、それに向かって努力したり、成長したりしていくことに関係する因子
※なんとかなる因子 ： どんなことも楽観的に捉えることができ、常にチャレンジ精神をもって取り組んでいくことに関係する因子
※ありがとう因子 ： 周囲にいるさまざまな人とのつながりを大切にすることに関係する因子

(3)　関係人口の移住に向けた段階的施策方針

社会増に寄与する移住者ですが、地域への関心を持った段階から移住を決断する方はなかなかいません。そのため、下図で示したように関係人口から段階的に移住に向けた施策を関係人口に実施することで、【関係人口の増加及び多様化】と【関係人口からの定住促進】に向けた取り組みを実施します。

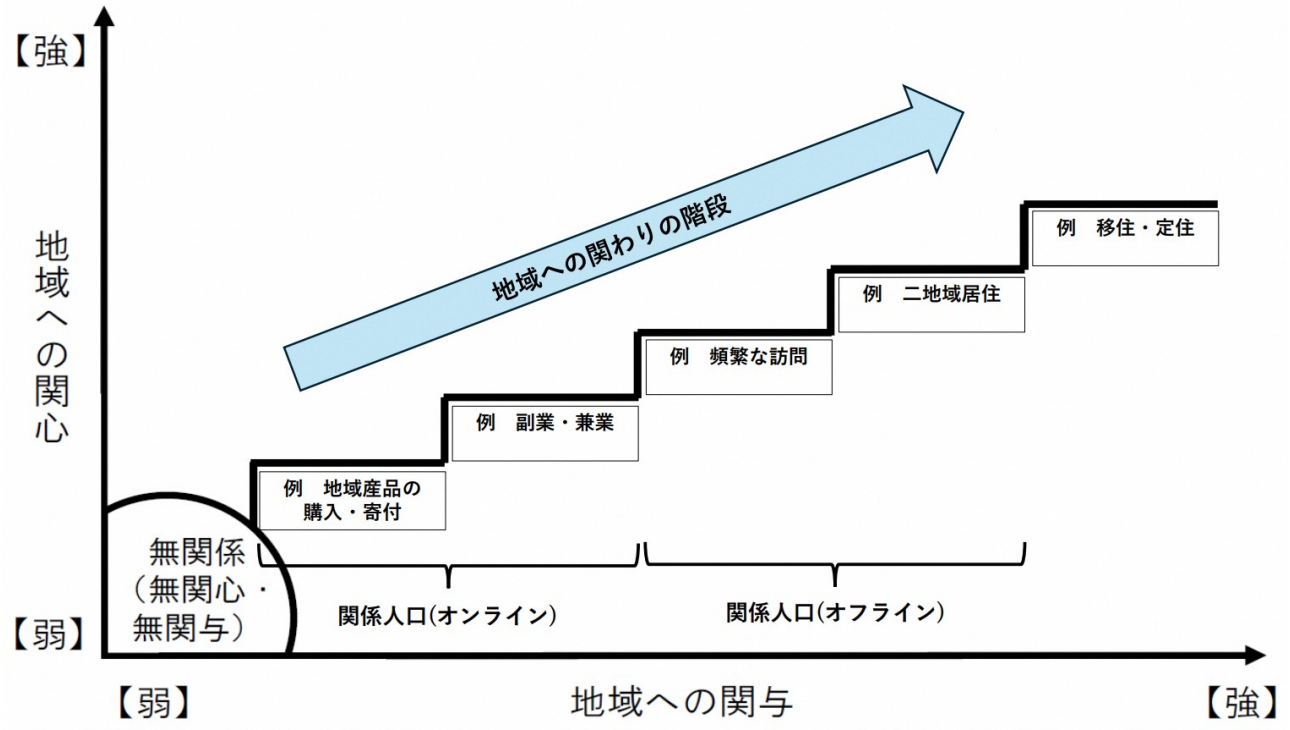
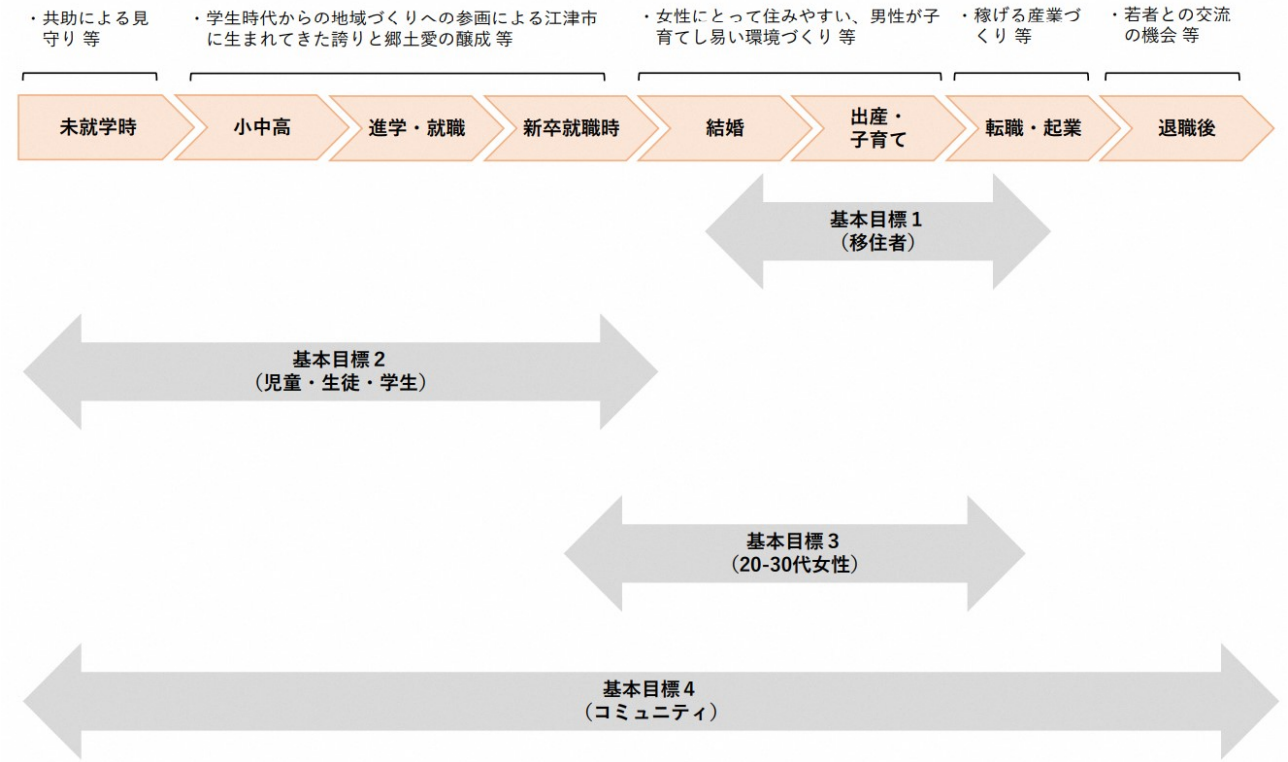


図 3　江津市の具体的な関係人口への段階的な取組
出典　総務省　関係人口の創出・拡大に向けた取組についてより、参考・改変

※定住人口　　：　地域に居住している方々。地域住民。
※関係人口(オンライン)：　観光やビジネスを通じ地域を知った方などに対して、地域への興味・関心を持ってもらうために地理的障壁を排したアプローチを実施し、オンライン上を中心とした地域との関係性を持つ方々
※関係人口(オフライン)：　実際に現地に来ていただき、リアルでの関係性を構築した方々

５．総合戦略の各基本目標における重点的対象

総合戦略では、人口ビジョン達成のために江津市にかかわる方々のライフステージに合わせた基本目標毎の対象を定めることにより、基本目標に基づく施策の位置づけを明確にし、施策の効果検証を実施します。



６．総合戦略の目標数値と実施施策の運用方針

総合戦略の運用方針については、基本目標毎の方針と施策内容を基に具体的な事業と事業目標数値を定めた総合戦略アクションプランを作成し、運用します。

総合戦略アクションプランについては年に１度、時流や市の情勢を鑑み事業見直しなどを行います。

7．基本目標毎の方針と施策内容

基本目標１　多様な生業（なりわい）と魅力ある雇用があるまち

【起業】【就農】【観光】【IT 系】【関係人口】の観点から施策を整理した上で、短期の施策目標数値に【移住者数】、中長期の施策目標数値として【所得向上】を掲げます。また、施策を横断する方針を【ブランディング・シティプロモーションによる認知獲得】【地場企業への伴走支援による付加価値向上】とし、江津市の商品・サービスの認知向上及び市場ニーズに即した経営施策の提案と実施時のサポートを推進します。

基本目標 1 の施策目標

	内容
施策の目標指標	新規雇用者数(60 人/年) 地域への愛着度(3.4 以上)

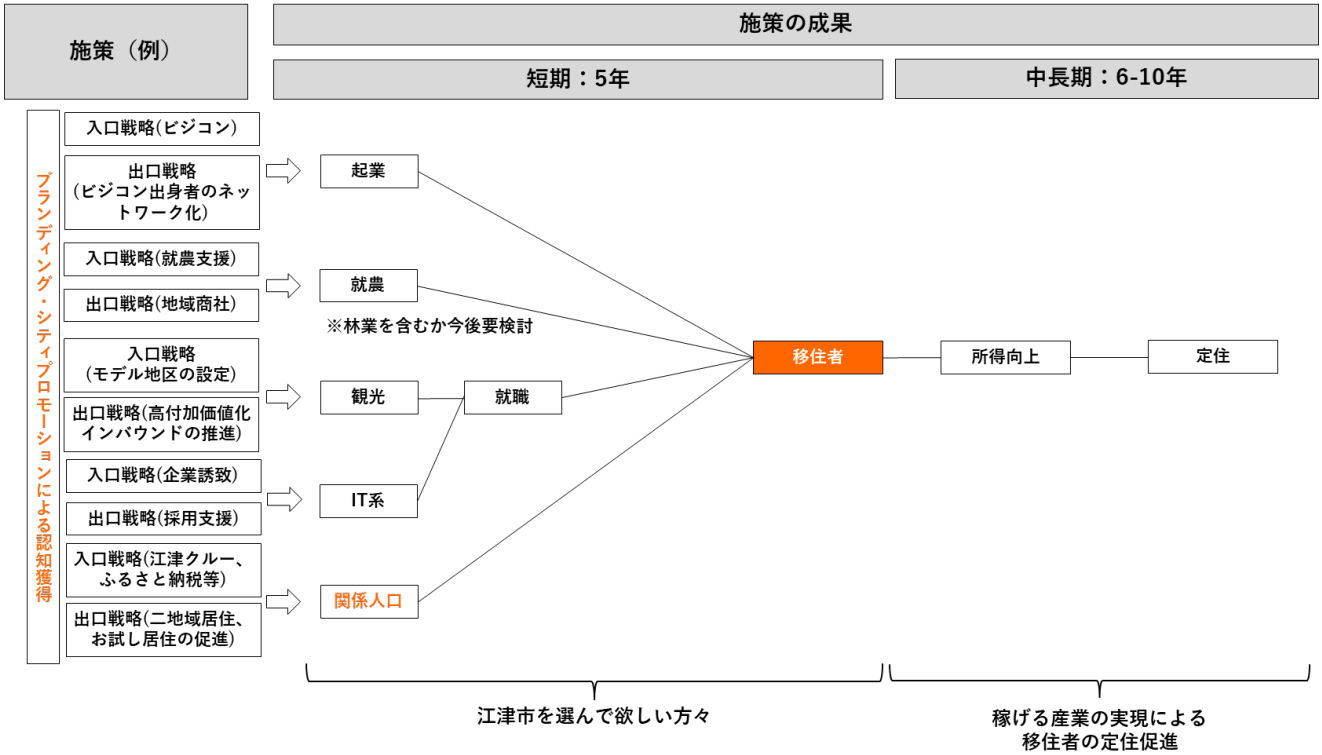


図 5　基本目標 1 に関する施策と成果との関係性

① 起業 ：

引き続き江津市ビジネスプランコンテスト事業の実施、コンテスト参加者の創業へ向けた伴走支援及び創業後の起業人材のネットワークの活性化に向けた取組を実施します。

② 就農 ：

第四次江津市有機農業推進計画を基盤とし、江津市の豊かな自然が育んだ有機野菜を起点とした地域内連携の促進、担い手確保・育成に向けた支援体制の拡充、「江津の有機ブランド」

確立を目指した取り組みを継続します。また、有機農業に限らず、新規就農者に対して、各種補助金の案内や申請補助、既存農家への紹介などの伴走支援を行います。

③ 観光 ：
有福温泉は、民間の企画力やノウハウを活かした運営の支援を実施しつつ、観光地のハードウェアの更新を推進します。コロナ禍収束後のインバウンド回復を受けて、外国人観光客の視点も考慮した広域的な連携を重視した取り組みを進める必要があります。

④ IT 系 ：
サテライトオフィス及びコワーキングスペースを開設し、IT やバックオフィスを含む幅広い分野の企業誘致を積極的に展開し、地元雇用を促進するとともに誘致企業の継続的な利用に向けたフォローアップ体制の拡充を推進します。

⑤ 地域企業 ：
江津市内の地域企業に対して、既存事業やリソースを活かした中長期事業戦略の策定から実施まで伴走支援を展開し、企業の付加価値向上のサポートを推進します。

⑥ 関係人口 ：
地域の公共施設のリブランディング等を通した地域住民と市外人材との協働事業を軸として、関係人口・活動人口の繋がりを深化させます。

基本目標２　住みたい！自分を活かせる場所があるまち

【未就学児～中学生】【高校生】【大学生】各々の地域への郷土愛の観点から施策を整理した上で、短期の施策目標数値に【まちづくりに対する学生の活動量】【学生の郷土愛】【地元就職率】、中長期の施策目標数値として【U ターン者数】を掲げます。施策を横断する方針を【子どもたちの縦の学びの一貫性強化】とし、異校種間や家庭と目指す子どもの姿を共有することによって、郷土に対する愛着の醸成を推進します。

基本目標 2 の施策目標

	内容
施策の目標指標	学生の地域への愛着度(令和 7 年度調査値を基準値とする)

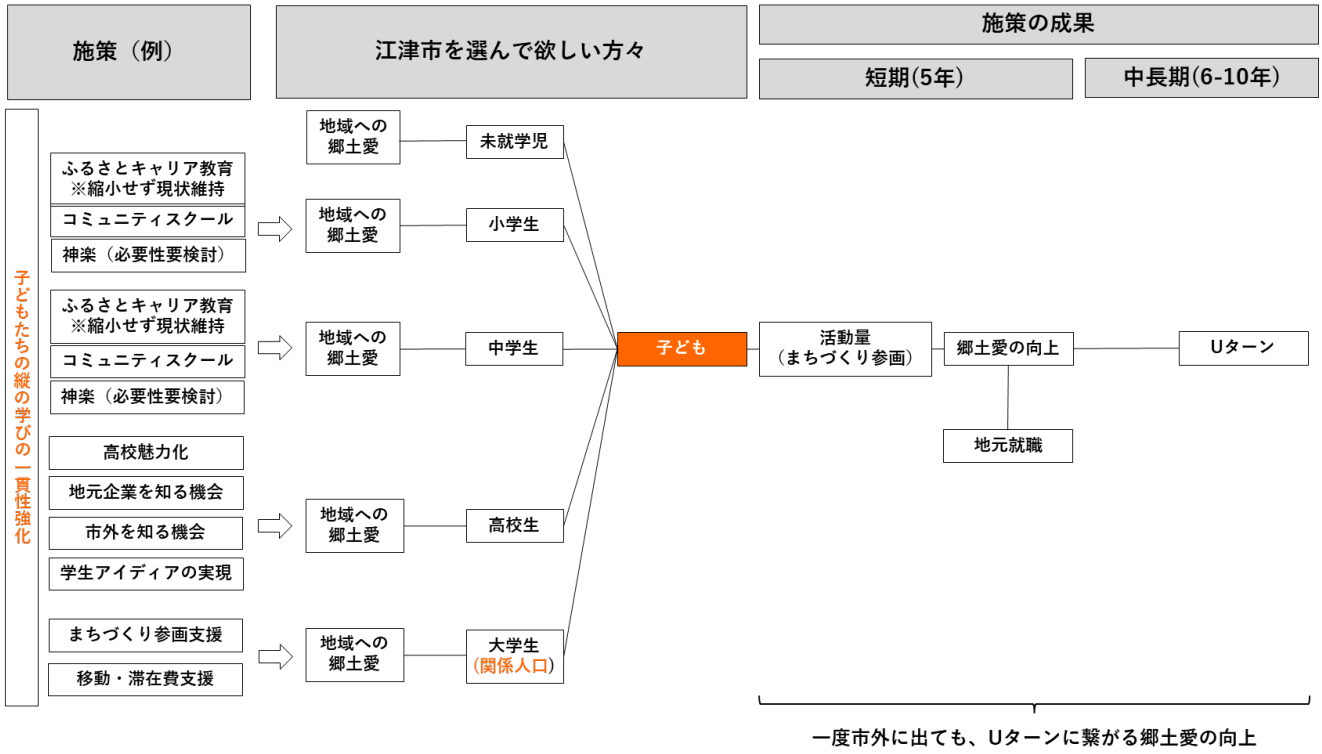


図 6　基本目標 2 に関する施策と成果との関係性

① 未就学児～中学生の地域への郷土愛 ：

ふるさと・キャリア教育やコミュニティ・スクールを通して、地域の様々な価値観に触れることで、地域への興味を愛着へと育めるような取組を実施します。また、幼小中連携した学びの場から、地域という共通課題を通した年代を超えたつながりを形成できるような取組を実施します。

② 高校生の地域への郷土愛 ：
高校魅力化事業を通して、自分たちの地域や関わっている人、そして自分自身の魅力を再認識できる取り組みを実施するとともに、市内外の様々な人材や文脈と出会う機会を創出し、高校生自身の興味・関心と将来の自分に対する意識を醸成します。

③ 大学生の地域への郷土愛 ：
県内外の大学生に対して、地域課題や魅力を共有し、意見交換やシンポジウムを通した交流や共同事業を通して江津市に対する認知・郷土愛を醸成します。また、大学生の参加障壁を下げるために移動費や滞在費補助等を検討します。

基本目標３　子どもたちの未来を地域みんなで育むまち

転入促進という観点から【未婚者】【ファミリー世帯】、転出抑制では転出理由の観点から【経済上の理由】【医療環境の理由】に焦点をあてて施策を整理した上で、短期の施策目標数値に【20～30 代女性の転出数・転入数】、中長期の施策目標数値として 20～30 代女性の人数が増加したことによる波及効果を掲げます。施策を横断する方針を【土台となるライフステージに応じたきめ細かな施策】とし、婚姻から出産・育児まで、当事者に寄り添った施策を展開することで、女性にとって子どもを産み・育てるなら江津市という雰囲気を地域ぐるみで推進します。

基本目標 3 の施策目標

	内容
施策の目標指標	市内在住 20～30 代女性の満足度(5.4 以上)

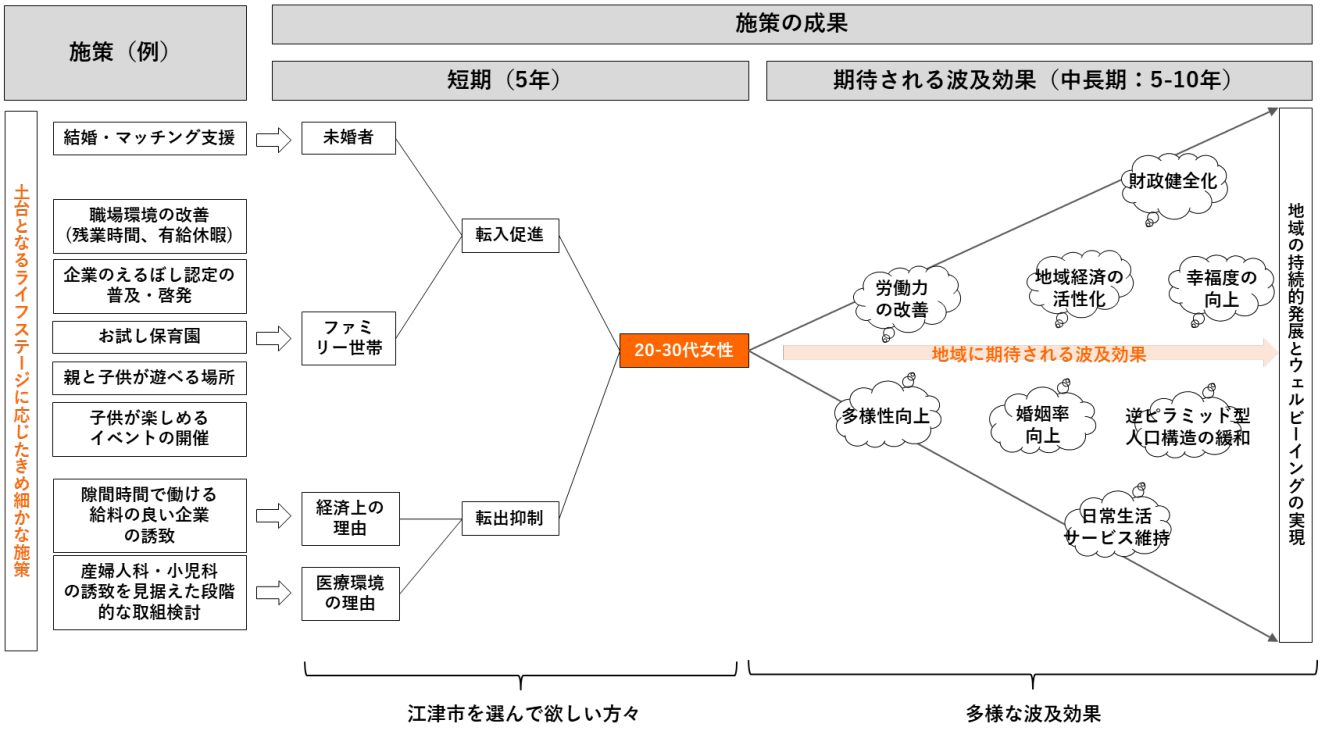


図 7　基本目標 3 に関する施策と成果との関係性

【転入促進】

①　未婚者 ：

江津はぴこ会及び恋活応援団等が実施するイベントの支援を実施し、江津市での出会いの場を創出します。

②　ファミリー層 ：

島根県が実施している「出産後職場復帰奨励金制度」、「子育てしやすい職場づくり奨励金制度」

の周知を引き続き行います。 性別に関わらず男女が協力していくことの大切さについて、企業や市民に広く理解されるよう講演会等を開催し、周知啓発していきます。また、子どもと親の触れ合う環境という側面において、親と子どもが遊べる場所づくりや、子どもが主体となったイベントの企画等を検討します。

【転出抑制】

① 経済上の理由 ：

サテライトオフィス及びコワーキングスペースを開設し、IT やバックオフィスを含む幅広い分野の企業誘致を積極的に展開すると同時に、求職者に対する市場ニーズに合ったスキルの習得を促すことで、雇用の受け皿と企業と求職者のマッチング率の向上を目指します。

② 医療環境の理由 ：

遠方で働いている地元出身医師との情報交換や地域枠推薦入学制度及び修学資金貸付制度の活用による人材確保を促進すると同時に浜田圏域における周産期医療体制の整備及び助産のあり方などを浜田市、県も交えて協議、検討を進めていきます。

基本目標３　子どもたちの未来を地域みんなで育むまち

生涯未婚率の減少という観点から、結婚願望のある未婚者に対する施策を整理した上で、短期の施策目標数値に【生涯未婚率の減少】、中長期の施策目標数値として【合計特殊出生率の向上】を掲げます。施策を横断する方針を【未婚者に対するニーズ・課題調査】として、結婚願望のある未婚者の状況や立場を分析することで、当事者目線から必要な施策を展開します。

基本目標 3 の施策目標

	内容
施策の目標指標	子ども女性比(0.25)

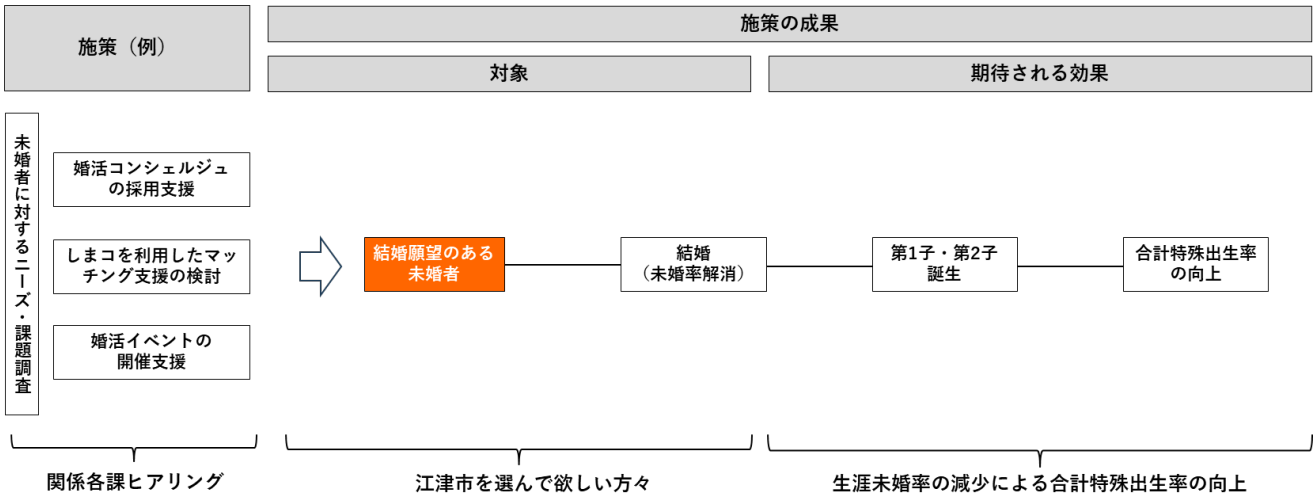


図 8　基本目標 3 に関する施策と成果との関係性

※子ども女性比＝ $\dfrac{\text{子どもの人数（0〜4 歳）}}{\text{女性の人数（20 歳〜44 歳）}}$

・結婚願望のある未婚者への支援

婚活コンシェルジュによる未婚者に対するアドバイスや出会いの創出を支援します。また、一般社団法人しまね縁結びサポートセンターが提供しているマッチングシステムを活用したマッチング支援の検討や一般社団法人しまね縁結びサポートセンターと提携している江津はぴこ会の婚活イベントの支援を実施します。

基本目標４　住み慣れた地域で安心して暮らせるまち

コミュニティが受け持つ機能の観点から【共助機能】【移動手段】【生活機能】【歴史文化機能】【関わりしろ】【収益機能】に施策を整理した上で、本総合戦略においては、期間を 5 年と定めているので、短期目標に焦点をあてた施策を展開します。施策を横断する方針を【各地域を支える地域リーダー・後継者の確保】【各地域コミュニティへの地域コーディネーターの配置】とし、小さな拠点づくりやコミュニティ・スクール推進への中心人物の育成や事例に関しての横展開を推進します。

基本目標 4 の施策目標

	内容
施策の目標指標	コミュニティ活動回数(7 回/年以上)

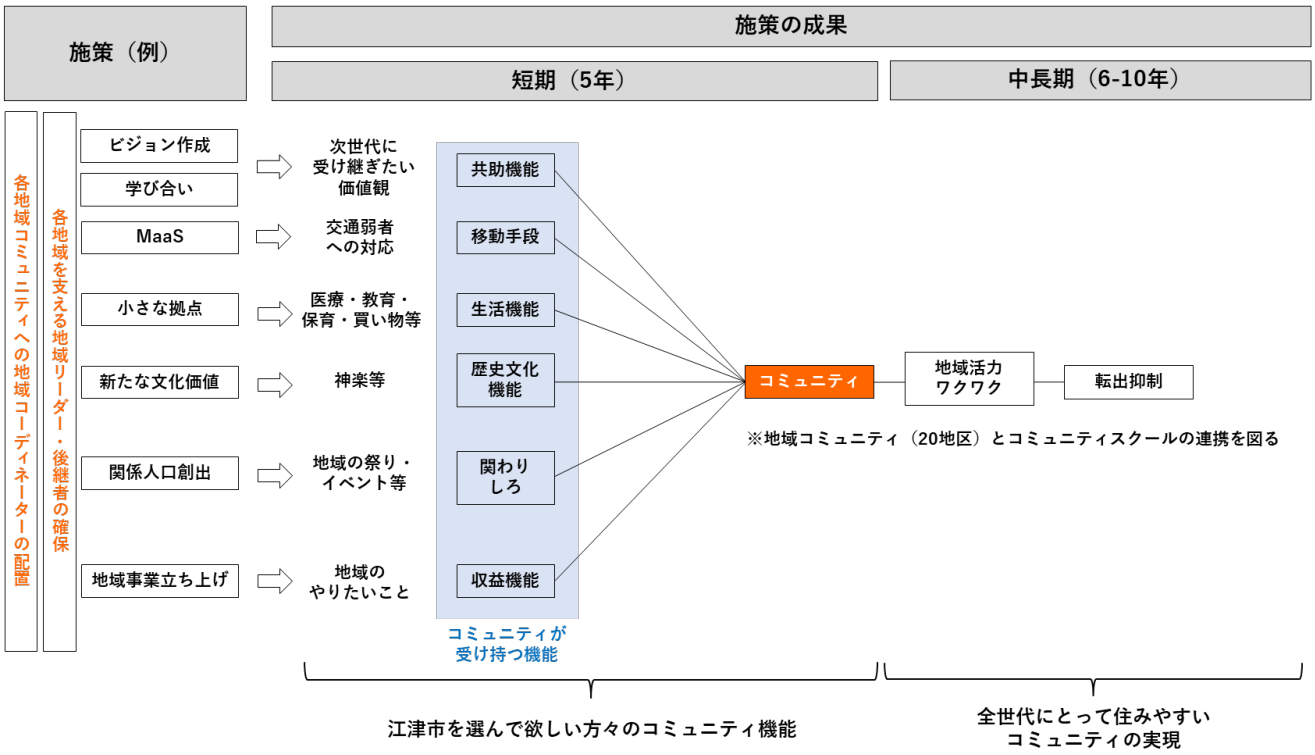


図 9　基本目標 4 に関する施策と成果との関係性

① 共助機能 ：

地域に住むあらゆる年代の市民が自分たちの住む地域の将来と想いを共有し、コミュニティの願いとして次世代へ向けたビジョンが策定できるよう、勉強会の実施支援や年代を超えた交流の場の開催、計画実施の相談窓口開設の検討を実施します。

② 移動手段 ：

江津市の持続可能な公共交通の在り方として江津市版 Maas に対する検討を実施します。現状の整理を実施し、人口推計及び利用目的や江津市マスタープランなどを踏まえて将来の需要予測を行い、将来の江津市にあった公共交通の検討を実施します。

③　生活機能 ：

高齢者の買い物支援の仕組みづくりや、子どもから大人まで幅広い年代が交流できる場の創出など、地域コミュニティが中心となって地域課題を解決していけるようコミュニティの運営支援やコミュニティ同士が繋がれる場の創出を推進します。

④　歴史文化機能

地域にある文化や芸能に触れ、その歴史背景を学ぶ機会の創出や街歩きを通した地域の文化や伝統芸能に携わる人と触れることで、地域の魅力を理解し、自分にできる関わり方を見つけられるような取組を企画・実施します。

⑤　関わりしろ

神楽をはじめとした自分たちの大切な伝統文化の魅力を外部に発信すると同時に興味を持った方が伝統文化に継続的に触れられる仕組みづくりに取り組みます。

⑥　収益機能

江津市に息づく有形・無形資産に対して多面的な視点から、市場の需要をとらえ、持続的な収益をあげられる仕組みづくりが求められており、外部人材の活用や地域連携などを通じた取り組みを実施します。